HONDA
汎用製品

高圧洗浄機

WS1010・1513

取扱説明書

ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書を
お読みください。

お買いあげありがとうございます。

お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、お買いあげいただいた販売店にお気軽にお申しつけください。

取扱説明書について

この取扱説明書は

・本機を操作するときは、必ず携帯してください。
・本機を貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にお渡しください。
・紛失や損傷したときは、お買いあげいただいた販売店にご注文ください。

---

e-SPECは、Hondaが「豊かな自然を次の世代に」という願いを込めた汎用製品環境対応技術の証です。

本製品は、(社)日本陸用内燃機関協会の小型汎用ガソリンエンジン排出ガス自主規制に適合しています。

はじめに

この取扱説明書は、お買いあげいただいた高圧洗浄機で安全かつ能率的な作業をする手助けとして編集されたものです。
取扱説明書の中には、本機の正しい取扱い方法、簡単な点検及び手入れについて説明してあります。
本機を運転する前にこの取扱説明書を良くお読みいただき、本機の操作に習熟してください。

安全に関する表示について
本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性や回避方法などを説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

⚠危険
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意
指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

取扱いのポイント
指示に従わないと、本機やその他のものが損傷する可能性があるもの

なお、この取扱説明書は、仕様変更などによりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。
本書はWS1010を中心に説明してあります。

目次

安全にお使いいただくためこれだけはぜひ守りましょう‥4
安全ラベル ‥‥‥

定期点検を行いましょう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・43
定期点検整備項目 ・・43

点検・整備のしかた・・44
エンジンオイルの交換 ・・44
エアクリーナ(空気清浄器)の清掃 ・・46
点火プラグの点検・調整・交換 ・・47
燃料ろ過カップの清掃 ・・48
ハンドルの脱着(WS1010)・・・49

長期間使用しないときの手入れ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・50

故障のときは・・52

主要諸元・・・54

安全にお使いいただくためこれだけはぜひ守りましょう

警告

あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。

●作業を始める前に

- この取扱説明書を事前に読み、正しい取扱い方法を十分にご理解の上操作してください。
- 間違いなく取扱うために各部の操作に慣れ、すばやく停止する方法を習得してください。
- 適切な指示、説明なしでは絶対に誰にも本機を運転操作させないでください。また、子供には操作させないでください。事故や、機器の損傷が起こる原因となります。
- 本機を他人に貸す場合は、取扱い方法を良く説明し、取扱説明書を良く読むように指導してください。
- 過労や飲酒、薬物を服用して本機を使用しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすことがあります。
- 日常点検、整備を必ず行い本機を常に良好な状態にしておいてください。不具合な状態や問題のある状態で操作すると、ケガをしたり本機を損傷する原因となります。
- ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。燃料を補給するときは必ずエンジンを停止して換気の良い場所で行ってください。
- 燃料を補給するときや燃料タンクの付近では、タバコを吸ったり炎や火花など火気を近づけないでください。
- 燃料はこぼさないように注意して所定のレベル(給油限界位置)を超えないように補給し、燃料給油キャップを確実に締めてください。もし燃料がこぼれた場合はきれいにふき取り、よく乾かしてからエンジンを始動してください。
- 排気ガス中には、有害な成分が含まれています。排気口は風通しの良い場所に向け、ご使用になる方はもちろん、まわりの人や動植物などにも十分注意してください。

警告

- 室内、倉庫、トンネル、井戸、船倉、タンク内など換気の悪い場所ではエンジンを運転しないでください。酸素不足や有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすおそれがあります。
- 本機は平坦な場所で使用してください。不整地（地面が凸凹していたり軟らかい場所）や傾斜地、崖の近くで使用すると、本機が振動により転倒、移動、落下し損傷するばかりでなく、燃料漏れにより火災のおそれがあります。
- 本機の改造は行わないでください。故障の原因となるばかりでなく思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- メタンガスなど可燃性のガスが発生する可能性のある場所では使用しないでください。火災や爆発などにより死傷事故のおそれがあります。また下水道などで使用する場合は、可燃性のガスが発生していないことを確認してから吸水してください。
- ガソリンなどの燃えやすい液体や、酸など酸性の強い液体を吸水しないでください。本機を損傷するばかりでなく、液体が気化すると火災や爆発などが発生し死傷事故を引き起こすおそれがあります。
- 海水、化学薬品、油脂類などを吸水しないでください。本機は海水、化学薬品、油脂類などによる腐食を防止する対策は施されていないため故障の原因となります。
- 洗浄に使用する水は清水を使用してください。泥水は絶対に使用しないでください。細かい砂、ゴミ等を吸いますと故障の原因となります。
- 本機は水温0°C～60°Cの範囲で使用してください。
- 水道の蛇口に直接ホースをつないでポンプに吸水する方法は法的規制を受ける場合があります。管轄している水道局の規定を確認してください。
- エンジン運転時に水が吸入しない状態で 1 分間以上の空運転はしないでください。シール部等の焼付きの原因となります。

警告

●使用中

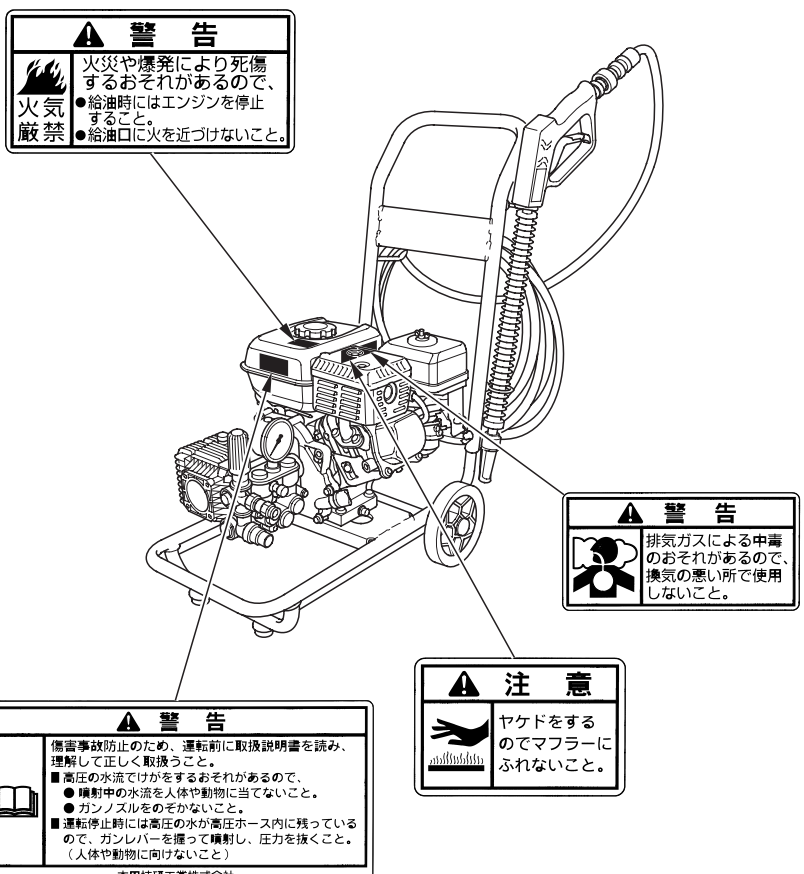
- 使用中は建物およびその他の施設から本機を１ｍ以上離してください。また本機のまわりに危険物（油脂類、セルロイド、火薬など）や燃えやすい物（わらくず、紙くずなど）を近づけないでください。本機の熱や排気ガスにより火災のおそれがあります。
- 本機の周囲を囲ったり、箱をかぶせないでください。エンジンが過熱し本機が損傷するばかりでなく、火災のおそれがあります。
- ガンノズルを人や動物がいる方向に向け噴射しないでください。噴射された水流は高圧のためケガをするおそれがあります。
- 使用中や停止直後はエンジン本体やマフラなどに触れないでください。熱によりヤケドをするおそれがあります。
- 使用中は本機を傾斜させたり、移動しないでください。転倒や振動などにより燃料漏れを起こすおそれがあります。
- ホースを無理に引張らないでください。本機の転倒などにより燃料漏れを起こすおそれがあります。また、ホースの外れ、水漏れを起こすおそれがあります。
- 運転停止時には、高圧の水が高圧ホース内に残っているので、エンジン停止後ガンレバーを握ってポンプ内の圧力を抜いてください。

●使い終わったら

- 各部の点検・清掃で本機に触れるときは、エンジンを停止し各部が冷えるまで十分に時間をおいてください。
- 長期保管前には、タンク内の燃料を抜き取り本機を火気や湿気のないところに保管してください。また、抜いた燃料は引火性があり、火災や爆発のおそれがあるので、所定の燃料タンクなどに入れ保管してください。
- 運搬時には、燃料タンク、キャブレータ内の燃料を抜き取り、本機が転倒したり動いたりしないようしっかり固定してください。
- 気温が低く水が凍結する気象条件で使用した場合は、ポンプ内の水を抜いてください。（41頁参照）ポンプ内に水が残っていると凍結し、部品が破損するおそれがあります。

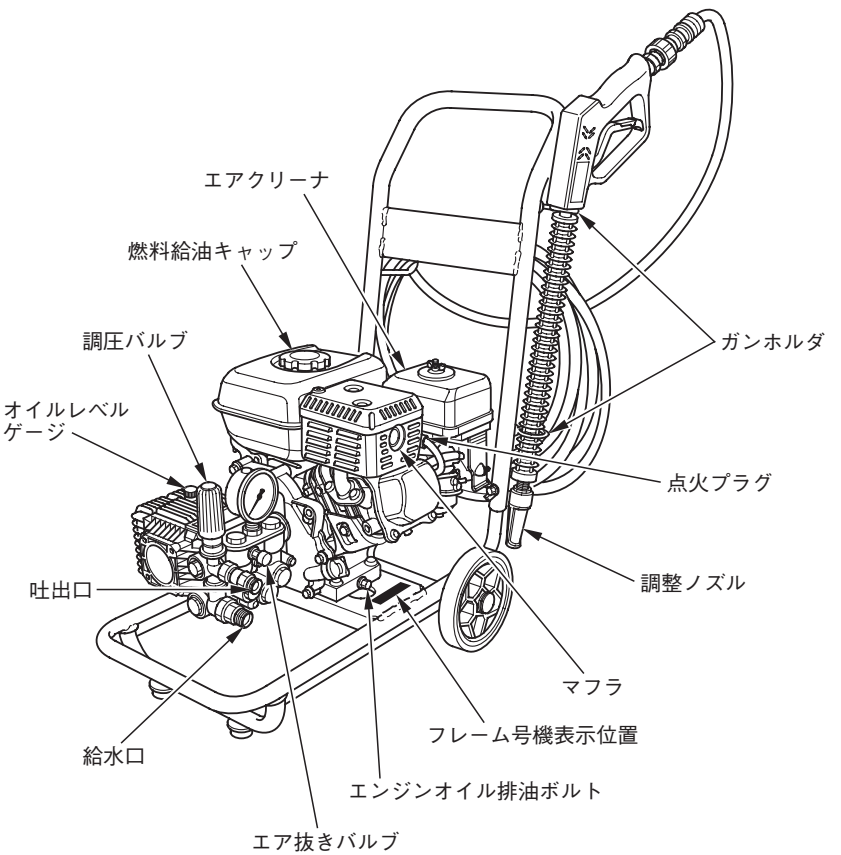
●安全ラベル

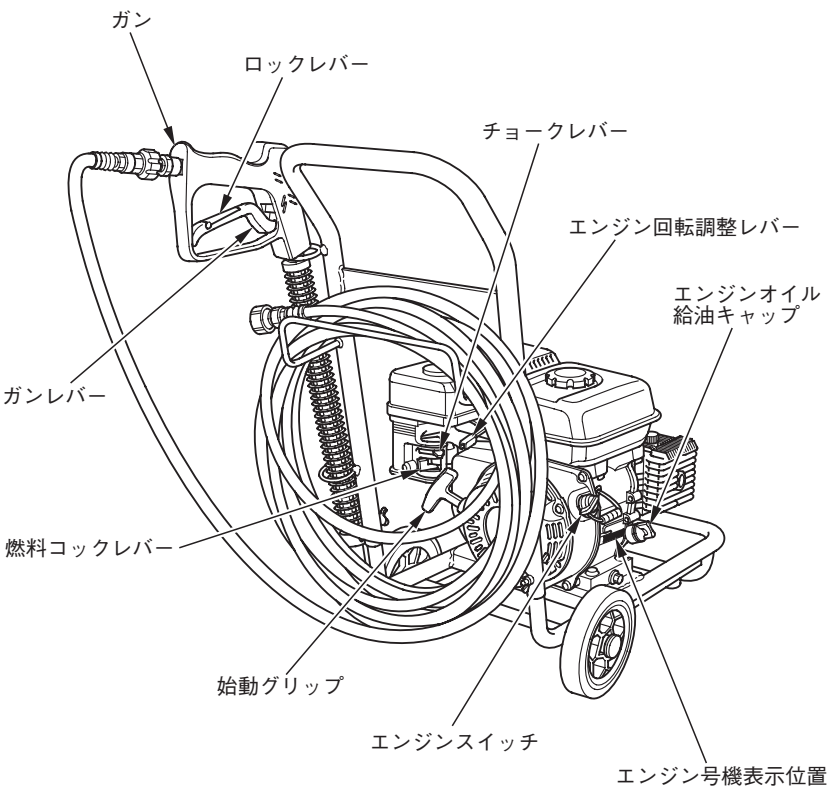
本機を安全に使用していただくため、本機には安全ラベルが貼ってあります。安全ラベルをすべて読んでからご使用ください。
ラベルははっきりと見えるように、きれいにしておいてください。
本機に貼ってあるラベルが汚れ、破れ、紛失などで読めなくなってしまったときは新しいラベルに貼り替えてください。また安全ラベルが貼られている部品を交換する場合は、ラベルも新しい物を貼ってください。
安全ラベルはお買いあげ販売店にご注文ください。



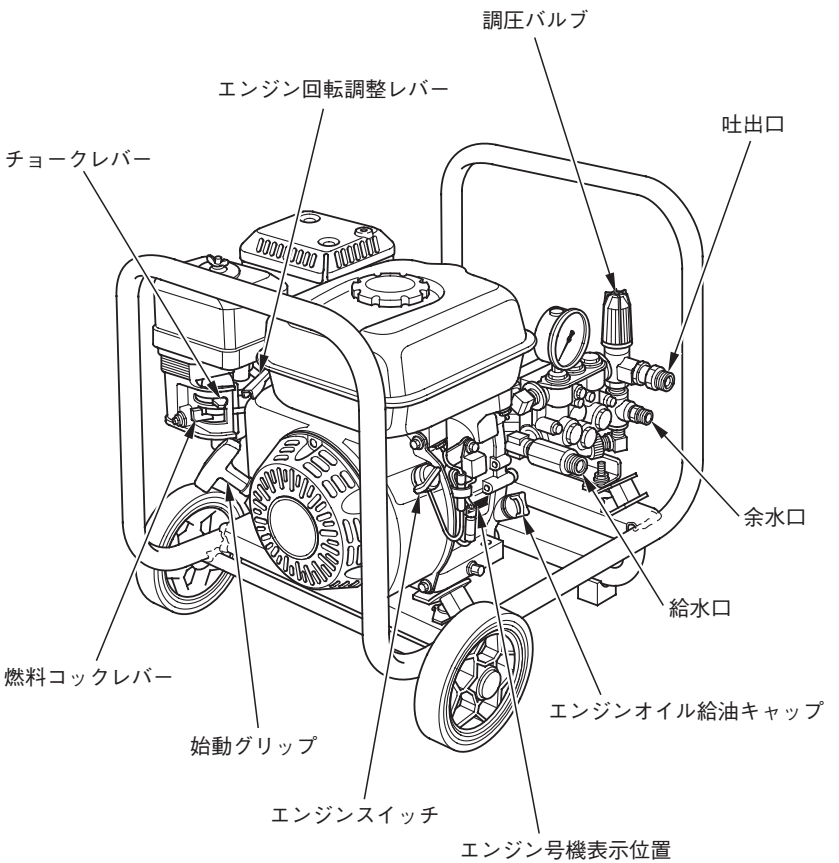
各部の名称と取扱いをおぼえましょう

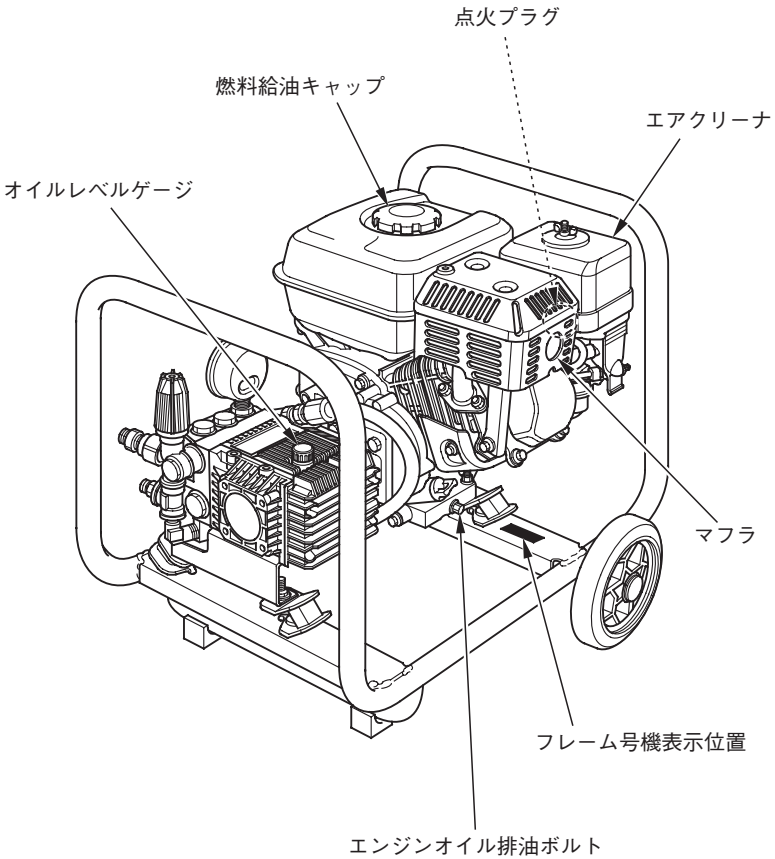
●WS1010




ガン
ロックレバー
チョークレバー
エンジン回転調整レバー
エンジンオイル
給油キャップ
ガンレバー
燃料コックレバー
始動グリップ
エンジンスイッチ
エンジン号機表示位置

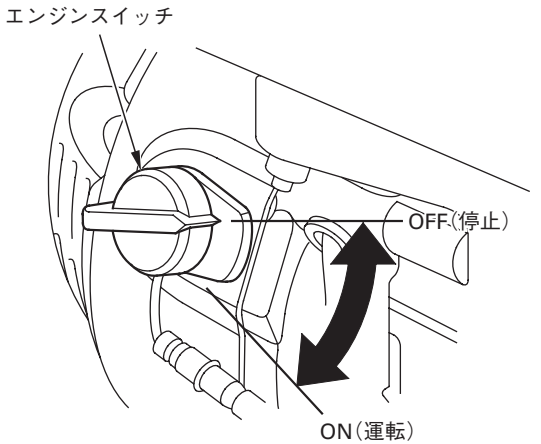
●WS1513


調圧バルブ
エンジン回転調整レバー
吐出口
チョークレバー
余水口
給水口
燃料コックレバー
エンジンオイル給油キャップ
始動グリップ
エンジンスイッチ
エンジン号機表示位置


点火プラグ
燃料給油キャップ
エアクリーナ
オイルレベルゲージ
マフラ
フレーム号機表示位置
エンジンオイル排油ボルト

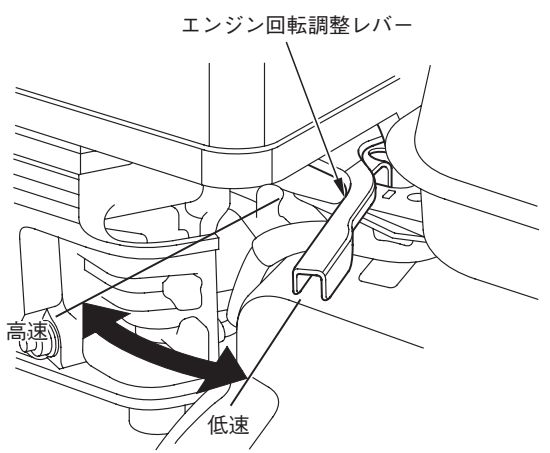
エンジンスイッチ

エンジンを運転、停止させるときに操作します。

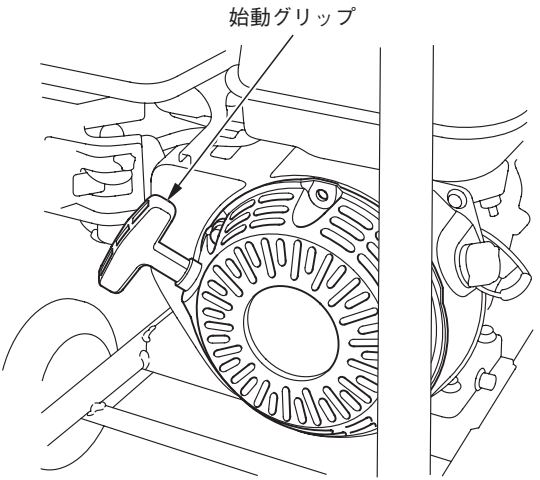


エンジン回転調整レバー

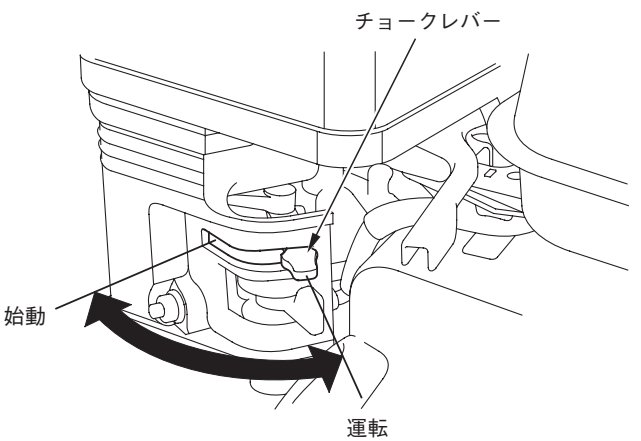
エンジン回転を調整するものです。



始動グリップ
エンジンを始動するときに操作します。

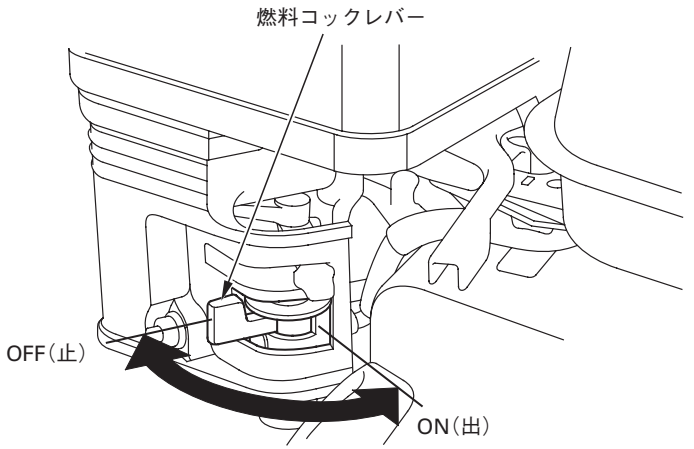


チョークレバー
始動時にエンジンが冷えている場合にチョークレバーを**“始動”**の位置にします。



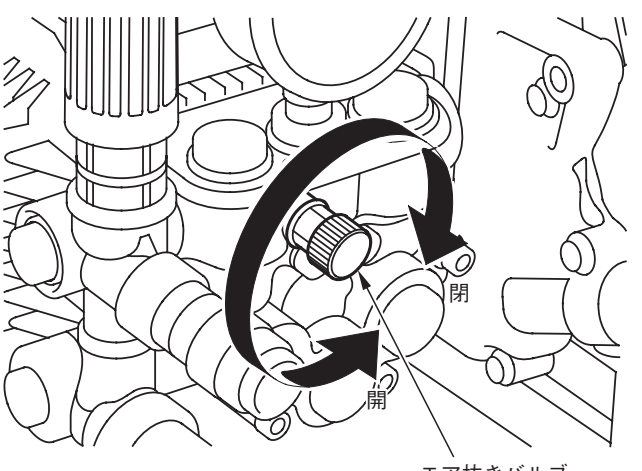
燃料コックレバー

燃料コックレバーは、タンクの燃料を出したり止めたりするときに操作します。



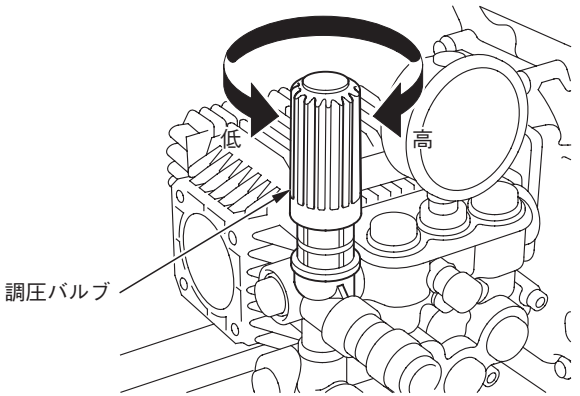
エア抜きバルブ（WS1010）

作業を始めるときにポンプ内のエア抜きを行うときに操作します。



調圧バルブ

噴射圧力を調整するときに操作します。
ポンプの規定圧力より上げないでください。
規定圧力:
WS1010 : 10 MPa (102 kgf/cm²)
WS1513 : 15 MPa (153 kgf/cm²)

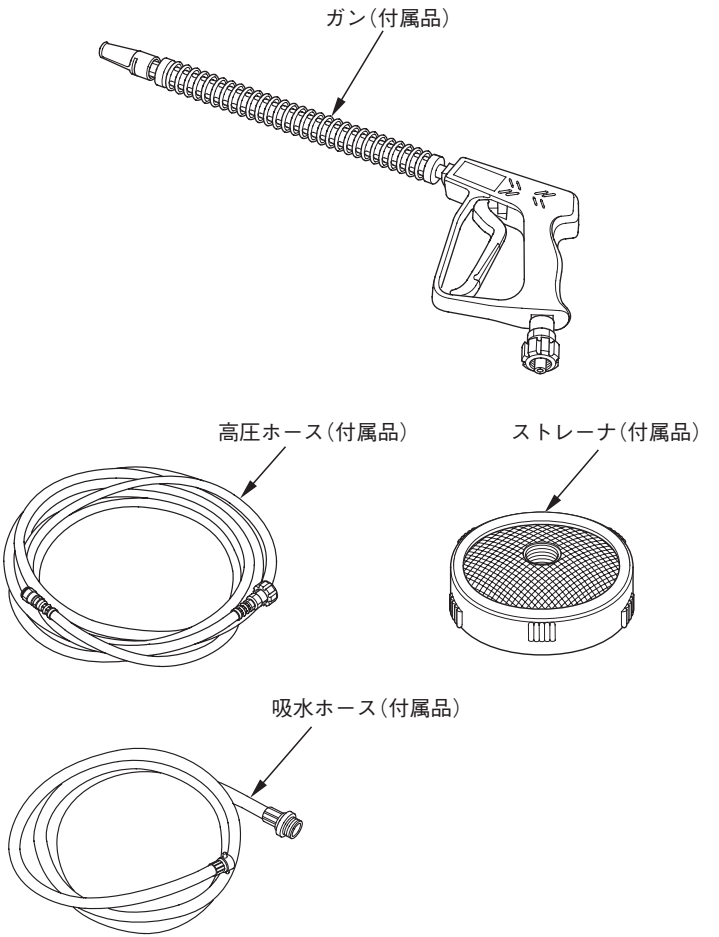


オイルアラートシステム(WS1513)

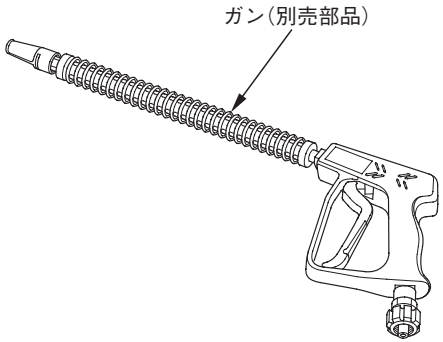
オイルアラートシステム(焼付防止エンジン自動停止装置)が内蔵されているため、運転中にオイルが不足すると、エンジンは自動的に停止します。エンジンが停止した場合は、エンジンオイル量を点検し、補充してください。(23頁参照)

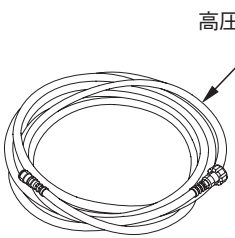
付属部品の組付け
付属部品、別売部品

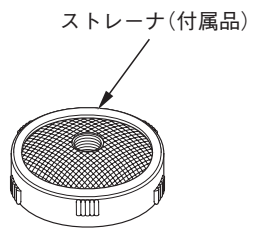
●WS1010

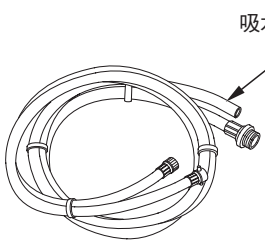


●WS1513







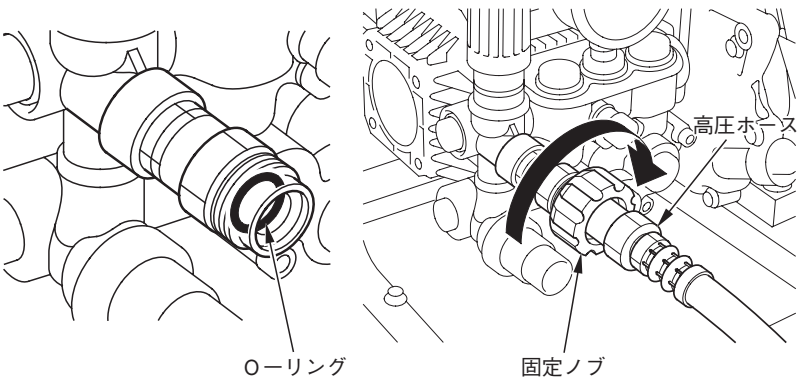


- 別売部品以外のガンをご使用になる場合は、圧力14.7MPa（150 kgf/cm²）で噴射量毎分11.1Lのノズルのガンをご使用ください。

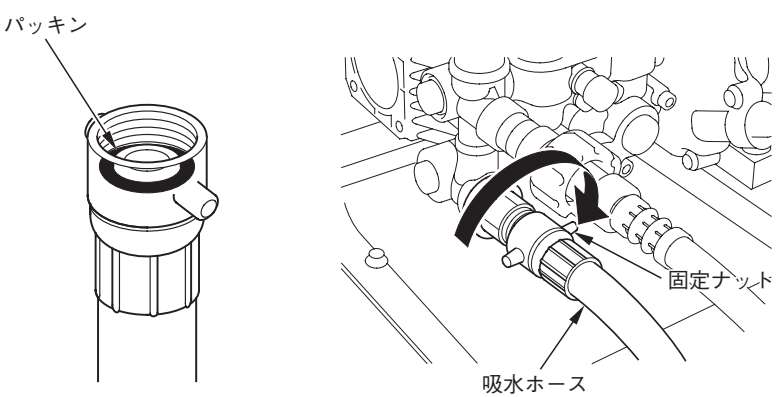
詳しくはお買い上げ販売店にお問い合わせください。

組付け

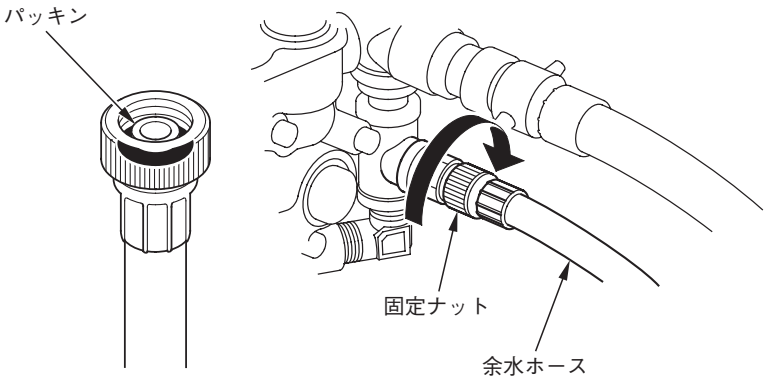
1. 高圧ホースをポンプ吐出口に取付け、固定ノブを回して固定します。Oーリングが破損していないこと、また正しく組付けられていることを確認し、高圧ホースを確実に取付けてください。



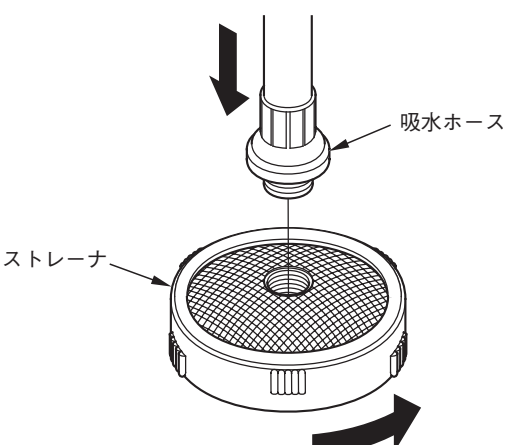
2. 吸水ホースをポンプ吸水口に取付け、固定ナットを回して固定します。パッキンが破損していないこと、また正しく組付けられていることを確認し、吸水ホースを確実に取付けてください。



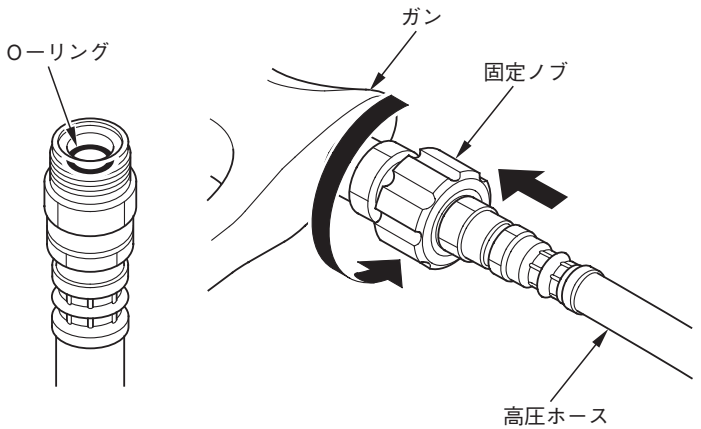
3. WS1513：
余水ホースをポンプ余水口に取付け、固定ナットを回して固定します。パッキンが破損していないこと、また正しく組付けられていることを確認し、余水ホースを確実に取付けてください。



4. ストレーナを吸水ホースの先端に取付けます。



5. ガンに高圧ホースを取付け、固定ノブを回して固定します。
Oーリングが破損していないこと、また正しく組付けられていることを確認し、高圧ホースを確実に取付けてください。



エンジンをかける前に点検しましょう

⚠警告

点検は平坦な場所で本機を水平にし、エンジンを止めて行ってください。誤ってエンジンがかからないように点火プラグキャップを外してください。

燃料の点検

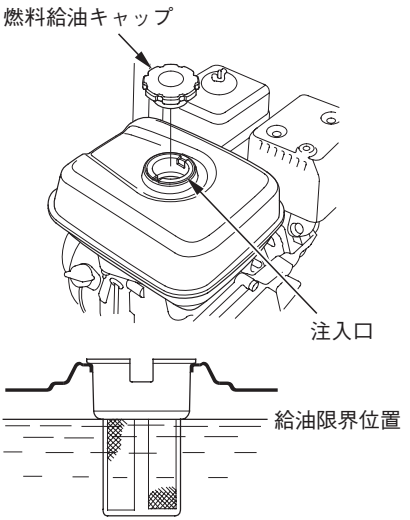
点　検

燃料給油キャップを外し、燃料の量を確認します。少ない場合は補給してください。

補　給

使用燃料:無鉛レギュラーガソリン

- キャップを外し、給油口の給油限界位置(規定レベル)以下まで補給してください。
- 補給後、キャップを確実に締付けてください。



⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。
ガソリンを補給するときは

- エンジンを停止してください。
- 換気の良い場所で補給してください。
- 火気を近づけないでください。
- 身体に帯電した静電気を除去してから給油作業を行ってください。静電気の放電による火花により、気化したガソリンに引火しヤケドを負うおそれがあります。
  本機や給油機などの金属部分に触れると、静電気を放電することができます。
- ガソリンはこぼさないように補給してください。万一こぼれた場合は布きれなどで完全にふき取ってください。ふき取った布などは火災と環境に注意して処分してください。
- ガソリンは注入口の口元まで入れず、給油限界位置を超えないように補給してください。入れすぎるとタンク内のガソリンが燃料給油キャップからにじみ出ることがあり危険です。

取扱いのポイント

- 必ず無鉛レギュラーガソリンを補給してください。高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。
- 軽油、灯油や粗悪ガソリン等を補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響をあたえます。
- ガソリンは自然に劣化しますので30日に1回、定期的に新しいガソリンと入れ換えてください。

エンジンオイルの点検

点　検

エンジンオイル給油キャップを外し、オイル注入口の口元までオイルがあることを確認してください。汚れや変色が著しい場合は交換してください。（交換方法は44頁参照）

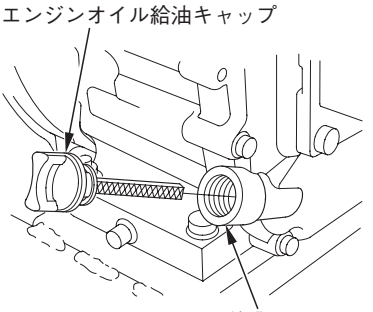
補　給

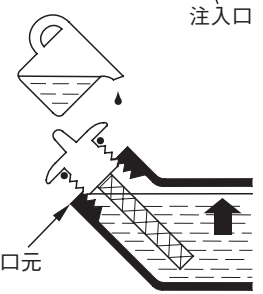
少ないときは新しいオイルを口元まで補給します。

推奨オイル：

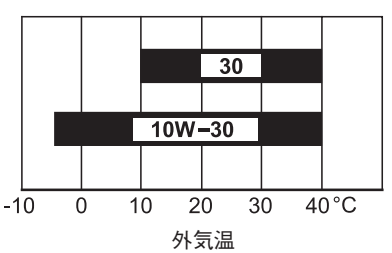
Honda純正ウルトラU汎用（SAE 10W-30）

またはAPI分類SE級以上のSAE 10W-30オイルをご使用ください。





エンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。



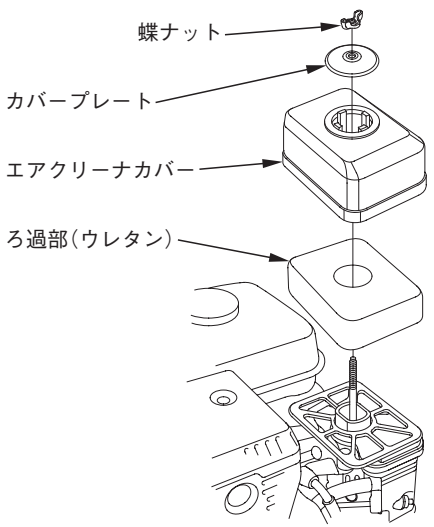
取扱いのポイント

エンジンオイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

エアクリーナ(空気清浄器)の点検

点　検

1. 蝶ナットを外し、カバープレートを外します。
2. エアクリーナカバーを外し、ろ過部(ウレタン)の汚れを確認します。汚れがひどい場合は、ろ過部の清掃を行ってください。(清掃方法は46頁参照)
3. エアクリーナカバー、カバープレートを取付け、蝶ナットを確実に締付けます。



取扱いのポイント

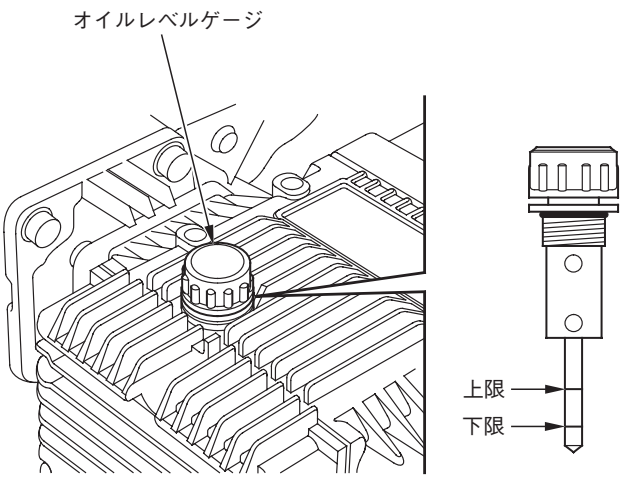
- エアクリーナカバーの締付けは確実に行ってください。締付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。
- エアクリーナカバーやろ過部(ウレタン)を装着しなかったり、取付け方が悪いと、エンジンに悪影響を与える原因になります。

クランク室オイル(ポンプ部)の点検・補給

点検・補給

1. オイルレベルゲージを外し、オイルレベルゲージをねじ込まずに差し込んでオイルが上限まで入っていることを確認してください。
2. 下限に近いときは、オイルを上限まで補給してください。
   (推奨オイルは23頁参照)
3. オイルレベルゲージを確実に取付けます。

- クランク室オイルの交換は、お買い上げ販売店へお申しつけください。



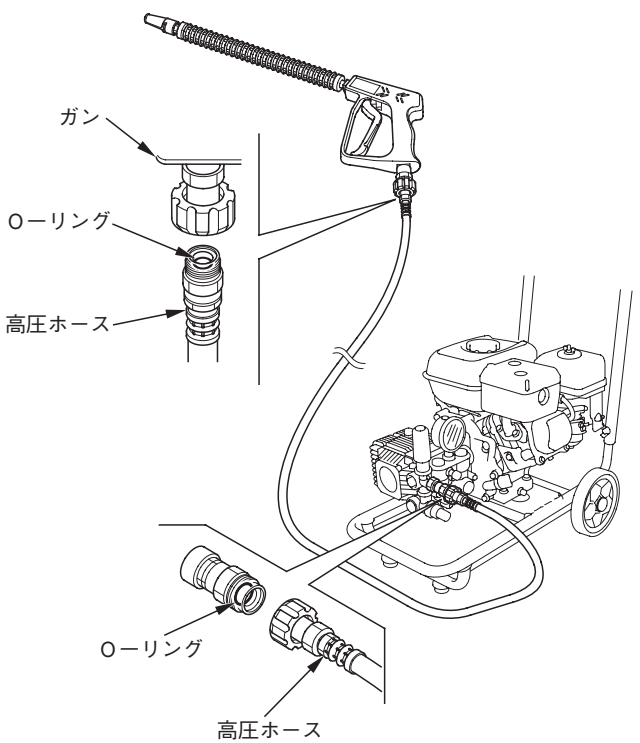
高圧ホース･ガンの点検

点　検

- 高圧ホースに破れ、損傷がないこと、また接続部のＯ－リングが破損していないことを点検してください。
- ホースが確実に接続されていることを確認してください。

⚠警告

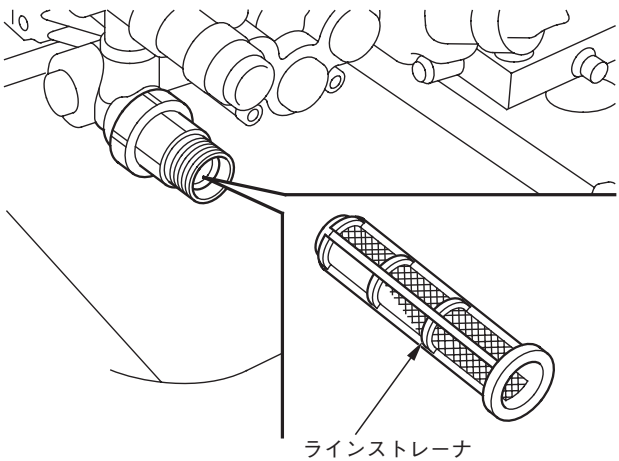
高圧ホースの接続部に異常がある場合は、新しい部品に交換してから使用してください。異常のまま使用すると、作業途中でホースが外れることがあります。外れたホースは高圧の水流により暴れ、ケガをするおそれがあります。



ラインストレーナの点検

点　検

1. 吸水ホースを外します。
2. 吸水口のラインストレーナを取外します。網を破らないように細い棒等で取出してください。
3. ラインストレーナに破れ、損傷、ゴミ詰まりがないことを確認してください。



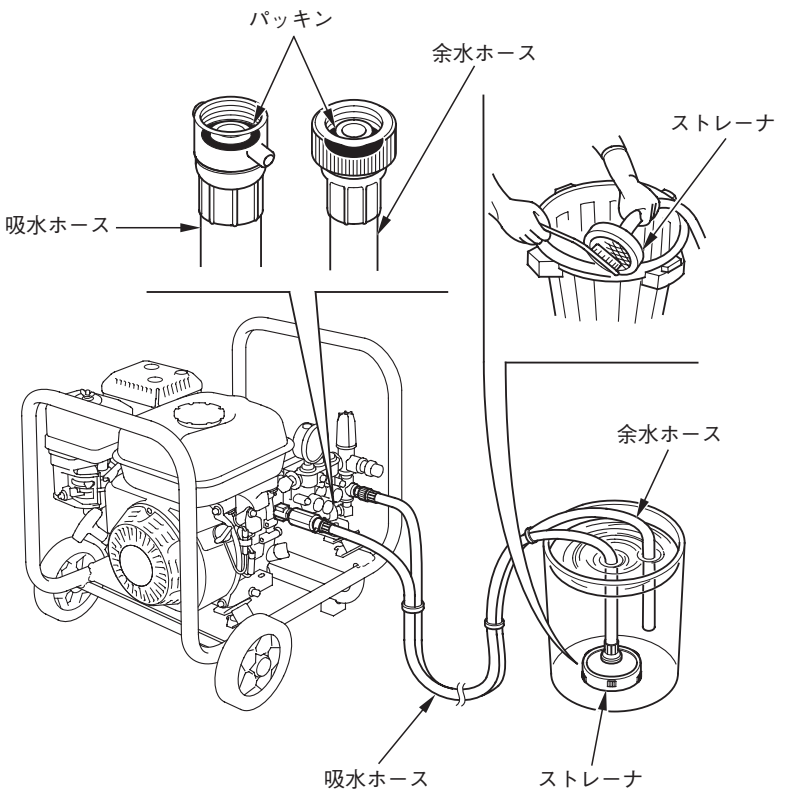
4. ラインストレーナに破れ、損傷がある場合は交換してください。また、ゴミなどが付着している場合は取除いてください。
5. 点検後は、ラインストレーナを吸水口に取付け、吸水ホースを確実に取付けます。(18頁参照)

- 長期間(１ケ月以上)使用しない場合は、ラインストレーナが水あかで目詰まりしている場合があります。十分に清掃してください。

吸水ホース・余水ホース（WS1513）・ストレーナの点検

点　検

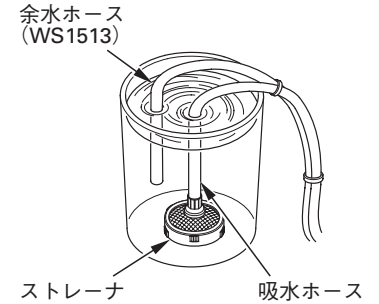
- 吸水ホースに破れ、損傷がないこと、また接続部のパッキンが破損していないことを確認してください。
- ストレーナにゴミが詰まっていないか確認してください。
  ゴミが付着しているときは、ブラシで清掃してください。
- 余水ホースに破れ、損傷がないか、また接続部のパッキンが破損していないことを確認してください。
- 吸水ホース、余水ホースが確実に接続されていることを確認してください。

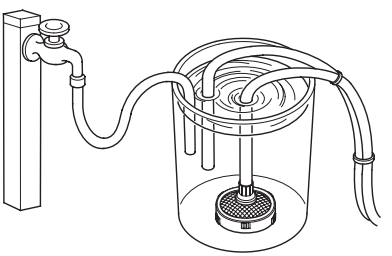


給水タンクの準備

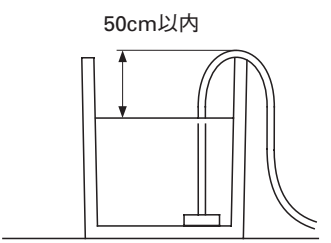
給水用タンクを用意し、タンクの中のゴミや沈殿物を取除いてください。本機の近くにタンクを置き清水(水道水)を入れます。
余水ホース(WS1513)とストレーナをタンクの中に完全に沈めます。

- 吸水ホースがタンクの縁などでつぶされないよう注意してください。
- 水道ホースからタンクに給水しながら作業するのもよい方法です。

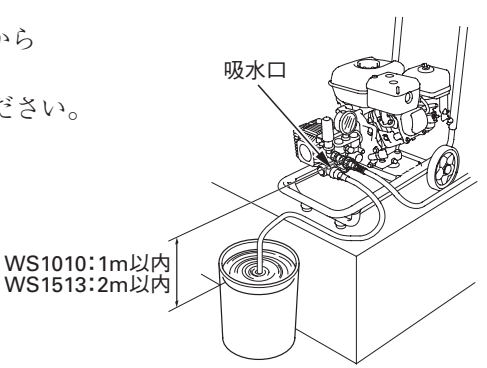




- 吸水ホースは給水タンク水面から50cm以内になるよう守ってください。吸水始めに吸い上げられないときがあります。



- 給水タンク水面は吸水口から
  WS1010:1m以内
  WS1513:2m以内にしてください。



エンジンのかけかた

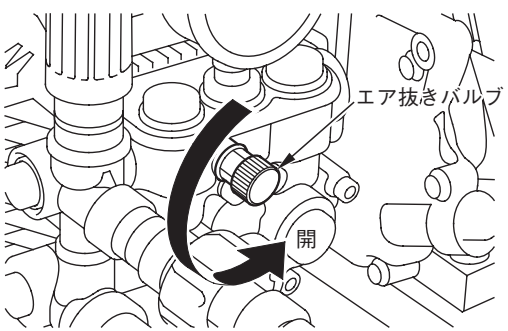
⚠警告

屋内や換気の悪い場所では、エンジンを始動しないでください。有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすおそれがあります。

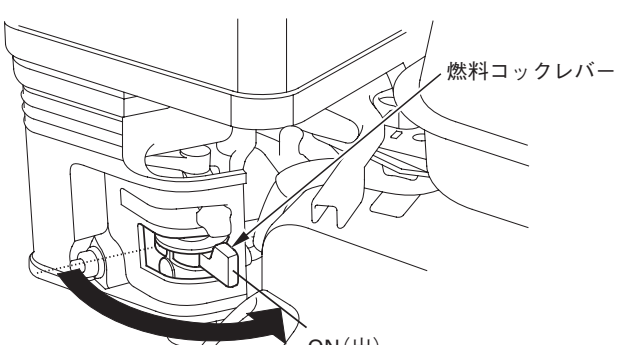
取扱いのポイント

外気温が低くポンプ内の水が凍結しているおそれがある場合は、ポンプを温水などで暖めてから使用してください。凍結したまま使用するとポンプが破損するおそれがあります。

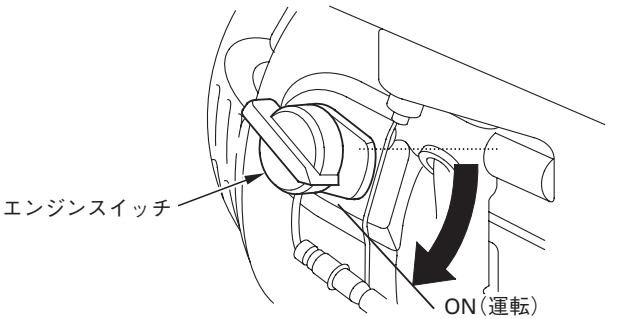
1. WS10101:
   エア抜きバルブを左へ一杯まで回して開きます。



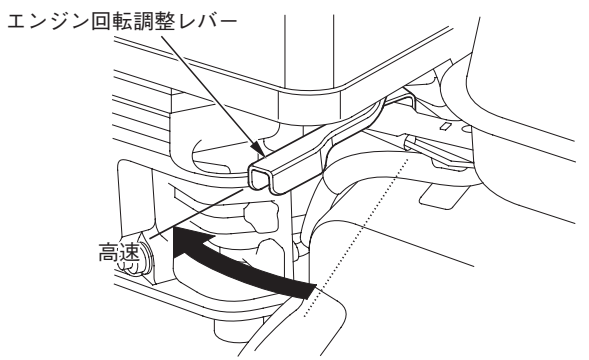
2. 燃料コックレバーを“ON”(出)の位置に合わせます。



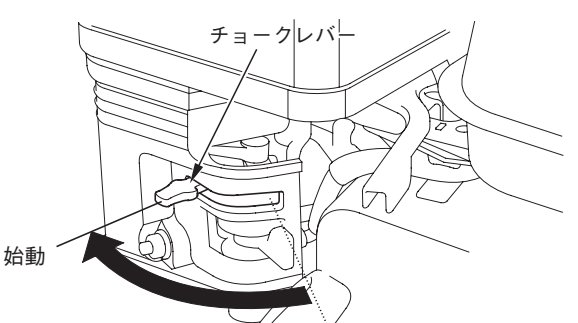
3. エンジンスイッチを“ON”(運転)の位置に合わせます。



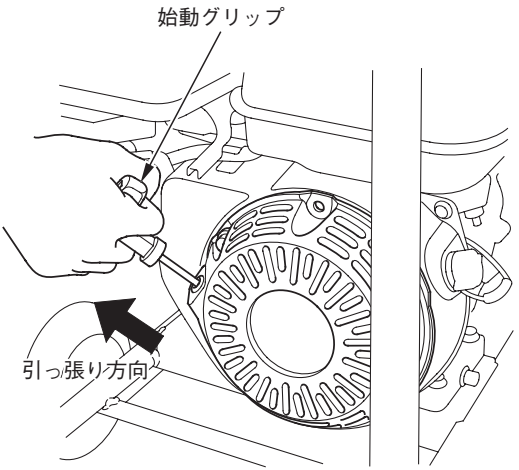
4. エンジン回転調整レバーを左いっぱいまで動かします。



5. 寒いときやエンジンがかかりにくいときは、チョークレバーを“始動”の位置に合わせます。



6. 本機をしっかり押さえ、始動グリップを静かに引き、重くなるところで止めます。次に矢印方向に強く引っ張ります。



⚠注意

始動グリップを引くときは、引っ張る方向に人や損害物がないか確認してから行ってください。ケガをするおそれがあります。

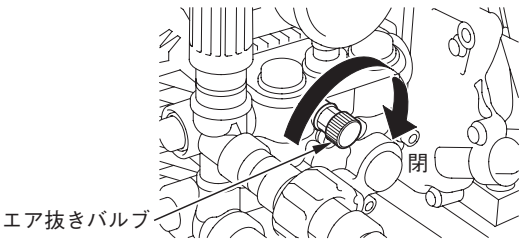
取扱いのポイント

- 始動グリップを引いたあと急に手を放さないでゆっくり戻してください。始動装置や回りの部品を損傷するおそれがあります。
- 運転中は始動グリップを引かないでください。エンジンに悪影響をあたえます。

7. WS1010:

エア抜きバルブから水が出ていることを確認し、エア抜きバルブを右へ一杯まで回して閉じます。

エア抜きバルブから水が出ないときは、34頁の方法で吸水口に“呼び水”を行ってください。

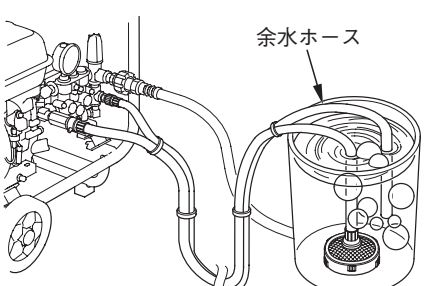


取扱いのポイント

エア抜きバルブから水が出ない状態で1分間以上運転を続けないでください。ポンプが過熱して故障の原因となります。

WS1513:

給水用タンク内の余水ホースから空気の泡が出なくなったのを確認し、余水ホースを引き上げて水が出ていることを確かめてください。余水ホースから水が出ないときは、34頁の方法で吸水口に“呼び水”を行ってください。

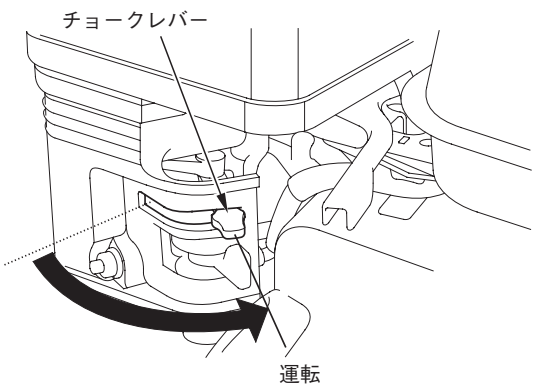


取扱いのポイント

余水ホースから水が出ない状態で1分間以上運転を続けないでください。ポンプが過熱して故障の原因となります。

8. 各部に水漏れ、油漏れがないことを確認してください。
水漏れや油漏れがある場合は、速やかにエンジンを停止し、販売店にお申しつけください。

9. 2～3分間暖機運転を行います。
チョークレバーを**“始動”**にしたときは、エンジン回転が安定することを確認しながら**“運転”**の位置へ戻します。
WS1010:
調圧バルブを右いっぱいまで回して(15頁参照)、圧力を下げてガンレバーを握り噴射しながら、暖機運転を行ってください。

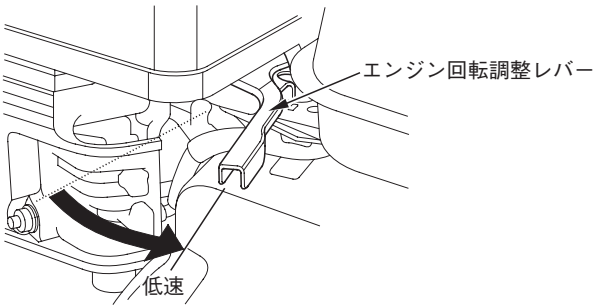


呼び水のしかた

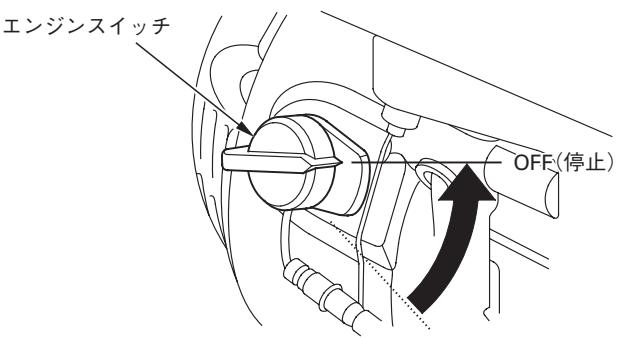
1. エンジンを止め、吸水ホースを外します。
2. 吸水ホースを水中に沈め、ホースの中に水を満たします。
3. そのまま吸水ホースを吸水口に取付け、“エンジンのかけかた”に従ってエンジンを始動します。

エンジンのとめかた

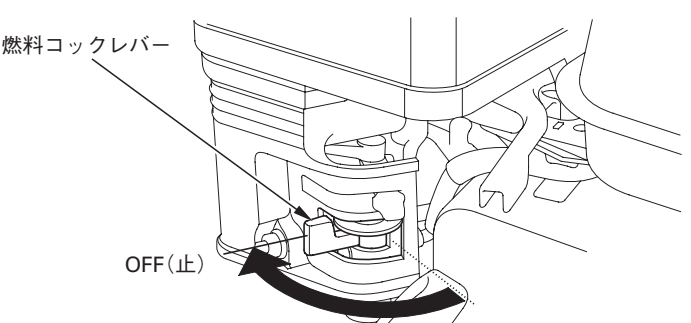
1. ガンレバーから指を放し、噴射を停止してください。
2. エンジン回転調整レバーを右いっぱいまで戻します。



3. エンジンスイッチを“OFF”(停止)の位置に合わせます。

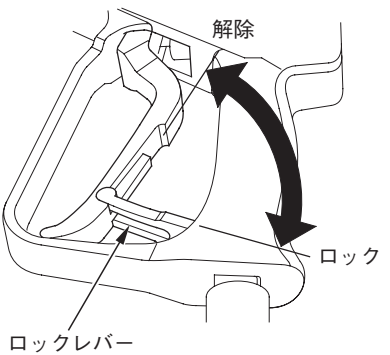


4. 燃料コックレバーを“OFF”(止)の位置に合わせます。

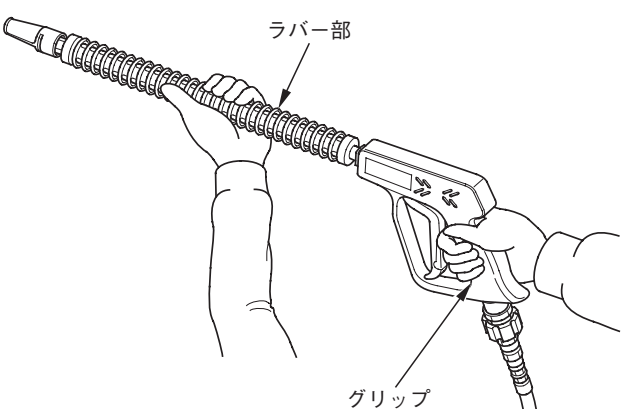


作業開始

1. エンジンを始動します。(30頁参照)
2. ガンレバーのロックを解除します。
   ロックレバーを引き上げ、解除の位置にします。



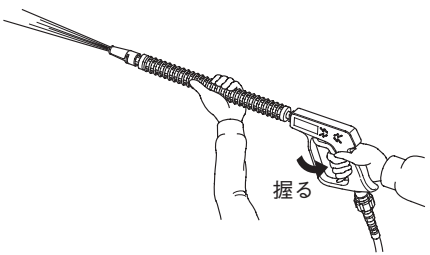
3. ガンのグリップをしっかり握り、中間を片方の手で支えます。
   ガンのラバー部を片方の手でしっかりと握ります。



4. ノズルを洗浄する部分に向けてガンレバーを握ると、高圧水が噴射されます。ガンレバーを放すと噴射が止まります。
5分以上噴射を停止する場合はエンジンを停止してください。(39頁一時停止参照)

⚠警告

ガンノズルを人や動物に向けて噴射しないでください。また噴射中の高圧水に手や足を入れないでください。ケガをするおそれがあります。



取扱いのポイント

5分以上噴射を停止した状態で放置するとポンプ内の水温が上がり洗浄機がオーバーヒートする原因となります。(WS1010)

取扱いのポイント

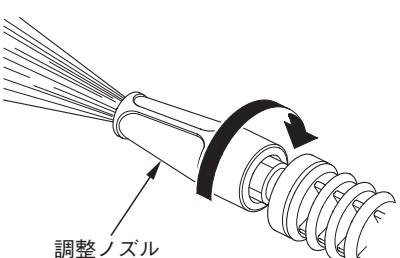
- 使用中に音、におい、振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを停止し、お買い上げ販売店にお問い合わせください。
- 高圧ホースを無理に引っ張ったり、高圧ホース接続部に無理な力を加えないでください。

- 必要に応じて給水タンクに清水(水道水)を補給してください。
- 噴射状態でガンレバーを紐や針金などで固定しないでください。いつでも噴射を停止できる状態にしておいてください。
- エンジン運転中に作業を一時中断するときは、必ずガンレバーをロックしてください。(39頁一時停止参照)
- 車、2輪車、農業機械、建設機械等に、水流を直接噴射しますと、塗装やアンダーコートがはがれたり、各シール部に水が侵入する場合があります。強い水流を直接噴射するのは避けてください、また電装部品には水がかからないようにしてください。

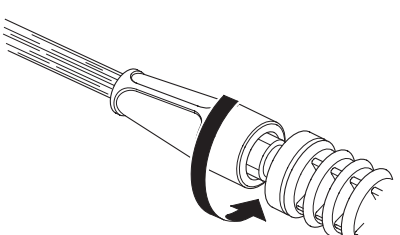
水流の調整

水流を調整したいときは調整ノズルを回して行います。

ノズルを右回り(時計回り)に回すと扇状の水流になります。



ノズルを左回り(反時計回り)に回すと直線状の水流になります。

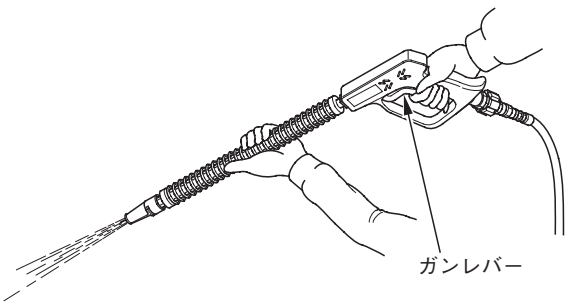


上手な洗浄のしかた

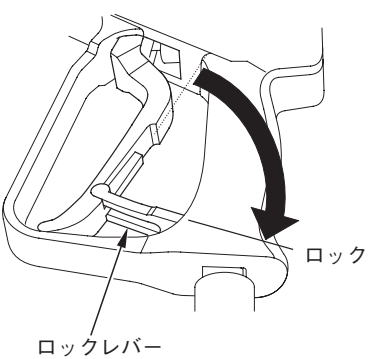
- 洗浄物にノズルを近づければ、洗浄力が増すわけではありません。一番洗浄力が高くなるのは20～25cmの距離です。
- 堅くこびり付いた汚れ、例えば車に付いた泥などは水圧だけでは落ちません。水流を弱くしてブラシなどを併用してください。

一時停止

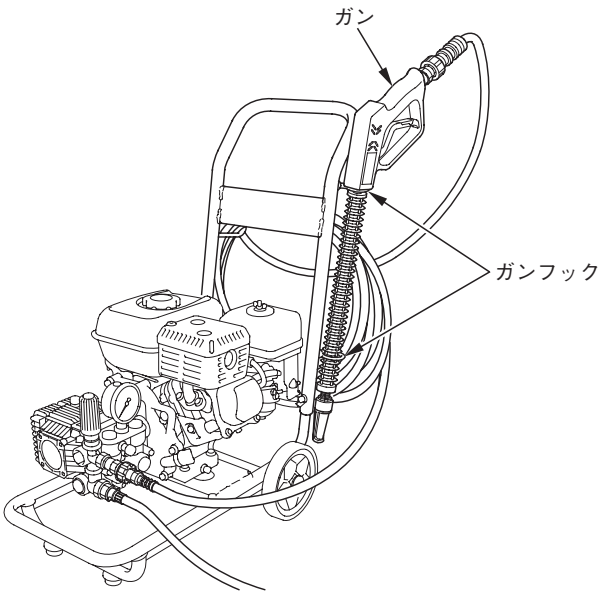
1. ガンレバーから指を放して噴射を停止します。
2. エンジンを止めます。(35頁参照)
3. ガンレバーを握って高圧ホース内の圧力を抜きます。



4. ガンレバーをロックしてください。
   ロックレバーを押し下げ、ロックします。



5. ガンのノズル先端にゴミや砂が入らないように注意してください。
WS1010:
ガンは本機ハンドル部に付いているガンフックに掛けてください。



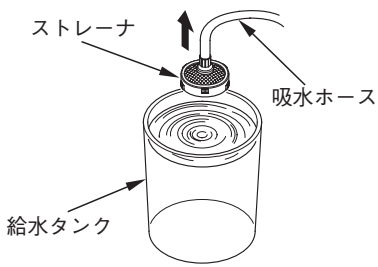
6. 作業を再開するときは、“エンジンのかけかた”(30頁参照)の手順2.からエンジンを始動し、作業を開始してください。

作業の終了

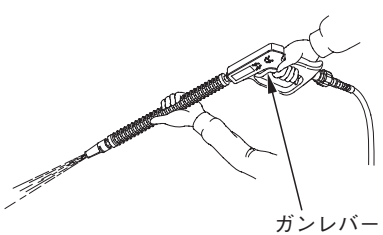
取扱いのポイント

ポンプおよび高圧ホース内の水と圧力を抜いてください。水が凍結する気象条件では、ポンプ内の水が凍結し、ポンプを破損するおそれがあります。0°C以下になる地域ではポンプ内に不凍液を吸入させて圧力を抜いてください。不凍液の取扱いは容器の案内に従って処置してください。

1. 運転している状態からガンレバーを放して噴射を停止してください。
2. 吸水ホースとストレーナを給水タンクから取出します。



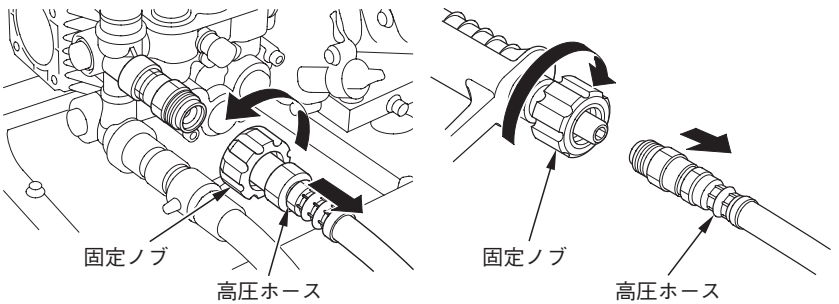
3. ガンレバーを握って高圧ホース内の圧力を抜きます。
   ガンレバーを握った状態で20～30秒間そのままにして、ポンプ内の水を抜きます。



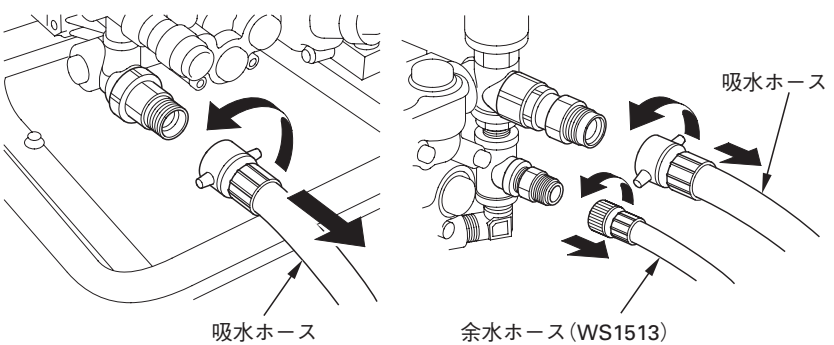
取扱いのポイント

2.と3.の手順は手早く行ってください。ポンプの中に水が入っていない状態で１分間以上空運転すると、ポンプが過熱し故障の原因になります。

4. エンジンを止めます。(35頁参照)
5. ガンレバーを握って高圧ホース内の圧力を抜きます。
6. 固定ノブをゆるめ、高圧ホースをガンとポンプ吐出口から外します。ホースの水抜きをして保管してください。
   - 高圧ホース接続部、ガンのホース接続部、およびポンプ吐出口にゴミや砂が入らないように注意してください。



7. 吸水ホースをポンプ吸水口から、余水ホース(WS1513)をポンプ余水口から外します。ホースの水抜きをして保管してください。
   - 吸水ホースと余水ホースの接続部、および吸水口と余水口にゴミや砂が入らないように注意してください。



- 本機は凍結のおそれのない室内に保管してください。

定期点検を行いましょう

お買いあげいただきましたHonda高圧洗浄機をいつまでも調子よく、長持ちさせるために定期点検を受けましょう。

定期点検整備項目

点検項目 ＼ 点検時期(1)		作業前点検	1ヶ月目または初回20時間運転目	3ヶ月毎または50時間運転毎	6ヶ月毎または100時間運転毎	1年毎または300時間運転毎	参照頁
エンジンオイル	点検	○					23
	交換		○		○		44
エアクリーナ	点検	○					24
	清掃			○(2)			46
点火プラグ	点検、調整				○		47
	交換					○	47
燃料ろ過カップ	清掃				○		48
アイドル回転	点検、調整					○(3)	−
吸入、排気弁の隙間	点検、調整					○(3)	−
燃焼室	清掃	500時間運転毎(3)(4)					−
燃料タンク、燃料フィルタ	清掃				○(3)		−
燃料チューブ	点検	2年毎(必要なら交換)(3)					−
ポンプクランクケースオイル	点検	○					25
	交換		初回50時間目(3)			200時間運転毎(3)	−
ストレーナ、ラインストレーナ	点検	○					27、28
吸水ホース(O−リング含む)	点検	○					28
高圧ホース、ノズル	点検	○					26
余水ホース(WS1513)	点検	○					28
各部水漏れ、オイル漏れ	点検	○					34
各部の締付け	点検					○(3)	−
パッキン、O−リング	点検					○(3)	−
バルブ	点検					○(3)	−
プランジャ	点検					○(3)	−
アンローダバルブ	点検					○(3)	−
ポンプ本体	分解					○(3)	−

(1)点検時期は表示の期間毎または運転時間毎のどちらか早い方で実施してください。
(2)ホコリの多い所で使用した場合は、エアクリーナの清掃は10時間運転毎または1日1回行ってください。
(3)適切な工具と整備技術を必要としますので、お買いあげ販売店またはサービス店で実施していただく項目です。
(4)表示時間を経過後すみやかに実施してください。

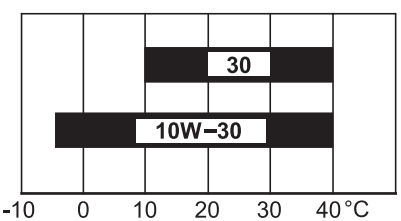
⚠注意
点検整備は平坦な場所でエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないように点火プラグキャップを外して行ってください。

エンジンオイルの交換

エンジンオイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

《推奨オイル》Honda純正ウルトラU汎用(SAE 10W-30)
またはAPI分類SE級以上のSAE 10W-30オイルをご使用ください。

エンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。



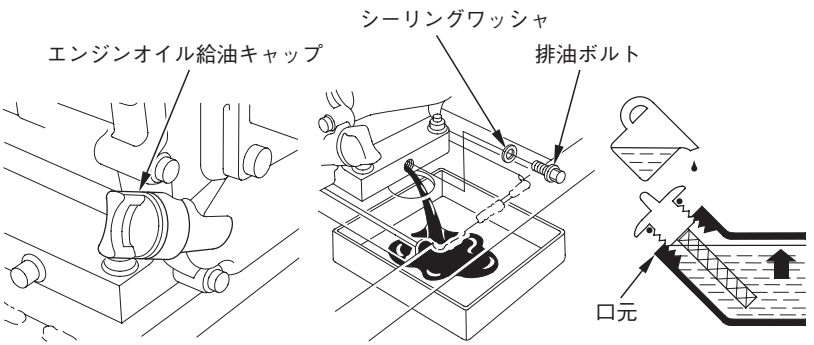
外気温

《規定量》 WS1010： 0.56 L
WS1513： 0.6 L

⚠注意
エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラなどの温度、また油温が高くなっています。十分に冷えてからオイル交換を行ってください。ヤケドをするおそれがあります。

《交換のしかた》

1. エンジンオイル給油キャップ、排油ボルトを外してオイルを抜きます。
2. エンジンオイルが完全に抜けたら排油ボルトを確実に締付けます。このときシーリングワッシャは新しい部品と交換してください。
3. 新しいオイルを注入口の口元まで注入します。
4. 注入後、エンジンオイル給油キャップを確実に締付けます。



取扱いのポイント

- オイルは、使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検・交換をしてください。
- 交換後のエンジンオイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。オイルの処理方法は法令で義務づけられています。法令に従い適正に処理してください。不明な場合はオイルをお買いあげになったお店にご相談の上処理してください。
- エンジンオイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

エアクリーナ(空気清浄器)の清掃

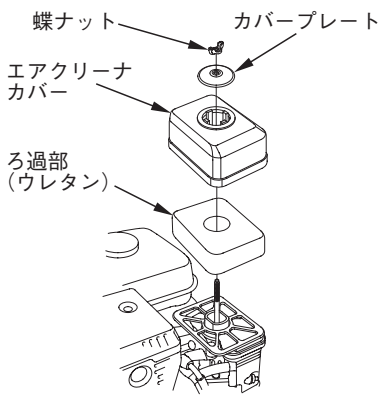
エアクリーナ(空気清浄器)が目詰まりすると出力不足や燃料消費が多くなるので定期的に清掃しましょう。

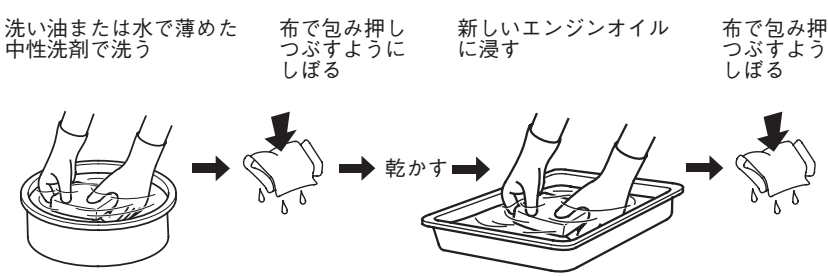
⚠警告

洗い油は引火しやすいので、タバコをすったり、炎などを近付けないでください。火災を起こす可能性があります。
洗浄は換気の良い場所で行ってください。

《清掃のしかた》

1. 蝶ナットを外し、カバープレート、エアクリーナカバーを取外します。
2. エアクリーナカバーからろ過部(ウレタン)を取外します。
3. ろ過部(ウレタン)は洗油または中性洗剤を水で薄めて洗い、よく絞って乾かします。エンジンオイルに浸したあと固く絞ります。





取扱いのポイント

- エアクリーナカバーの取付けは確実に行ってください。取付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。
- エアクリーナカバーやろ過部(ウレタン)を装着しなかったり、取付け方が悪いと、エンジンに悪影響を与える原因になります。

点火プラグの点検･調整･交換

⚠注意

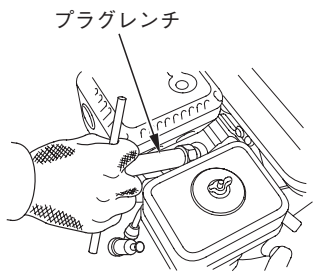
エンジン停止直後マフラや点火プラグなどは非常に熱くなっており、ヤケドをするおそれがあります。作業はエンジンが十分に冷えてから行ってください。

電極が汚れたり、電極のすき間が不適当ですと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

《点検》

1. 点火プラグキャップを外し、プラグレンチで点火プラグを外して清掃します。
2. プラグの清掃はプラグクリーナを使用するのが最も良い方法です。お買いあげ販売店をご利用ください。

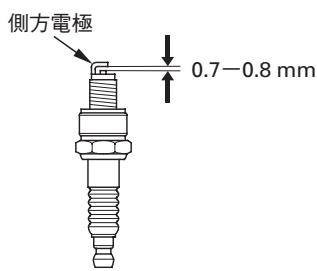
● プラグクリーナが無いときは、針金かワイヤブラシで汚れを落としてください。



《調　整》

側方電極をつめ、火花すき間を下記寸法に調整します。

火花すき間：0.7－0.8 mm



《標準プラグ》

BP6ES (NGK)、W20EP-U (DENSO)

取扱いのポイント

- 故障の原因となるので標準以外の点火プラグを使用しないでください。
  点火プラグの取付けは、ネジ山を壊さないようにまず指で軽くねじ込み、次にプラグレンチで確実に締込んでください。
- 点検調整後は点火プラグキャップを確実に取付けてください。確実に取付けないとエンジン不調の原因となります。

燃料ろ過カップの清掃

⚠警告

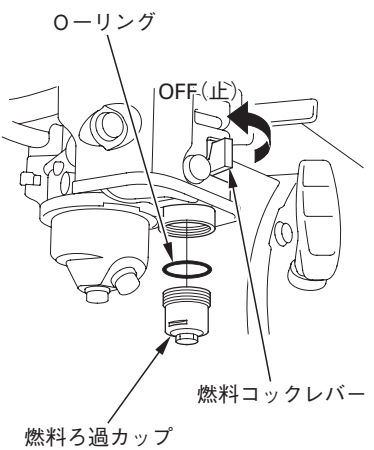
ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。

- 換気の良い場所で行ってください。
- 火気を近づけないでください。
- ガソリンはこぼさないようにしてください。万一こぼれた場合は、布きれなどで完全にふき取り火災と環境に注意して処分してください。

燃料ろ過カップ内に水やゴミがたまるとエンジン不調の原因となります。

《清掃のしかた》

1. 燃料コックレバーを“OFF”(止)の位置にします。
2. 燃料ろ過カップをゆるめて取外します。
3. 燃料ろ過カップを洗い油でよく洗い底にたまったゴミや水を取除きます。
4. 清掃後、燃料漏れのないようにO－リングを取付け、燃料ろ過カップを確実に締付けてください。



ハンドルの脱着(WS1010)

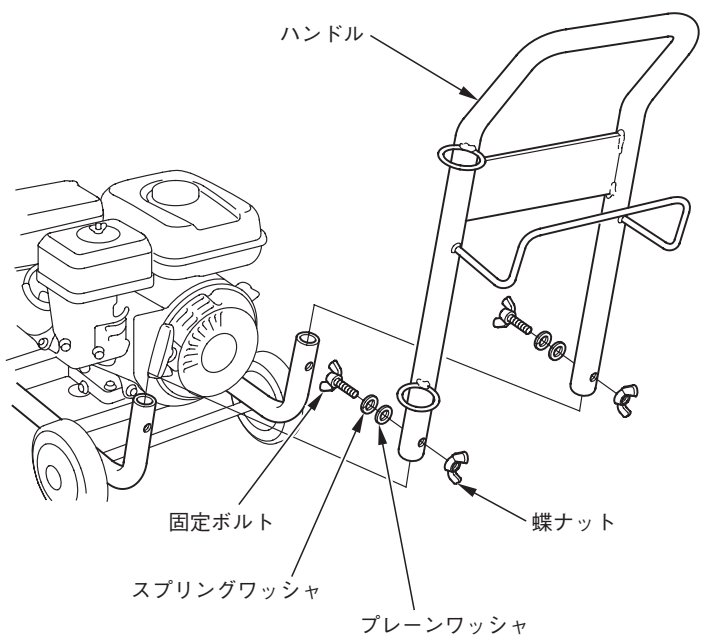
ハンドルは下記の手順で取外しができます。場所も取らずに収納できます。

取外し:

1. 蝶ナットを取外します。
2. 固定ボルト、プレーンワッシャ、スプリングワッシャを取外します。
3. ハンドルを引抜き、取外します。

取付け:

1. ハンドルを図の向きで取り付け、ボルト穴を合わせます。
2. プレーンワッシャ、スプリングワッシャ、固定ボルトを取付けます。
   固定ボルトは、エンジン側から差込みます。
3. 蝶ナットを確実に締付けます。



長期間使用しないときの手入れ

長時間運転しない場合、または作業を終り長期間格納する場合は次の手入れを行ってください。
30日以上使用しないときは、燃料タンクとキャブレータ内の燃料を抜いてください。古くなった燃料は故障の原因となります。

⚠注意

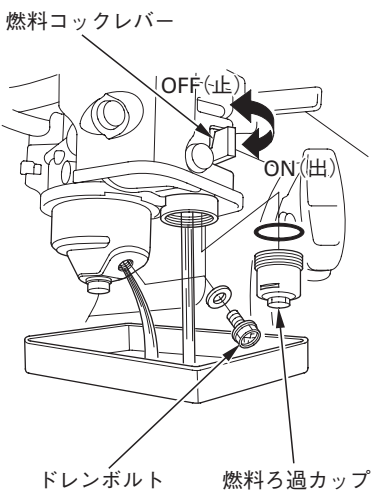
エンジン停止直後はエンジン本体マフラや点火プラグなどは非常に熱くなっており、ヤケドをするおそれがあります。作業はエンジンが十分冷えてから行ってください。

エンジンを必ず停止し、万一の始動を防ぐため、点火プラグキャップを点火プラグから取外してください。

1 燃料タンク、キャブレータ内の燃料を抜きます。

《抜きかた》

1. 燃料コックレバーを“OFF”(止)にします。
2. 燃料ろ過カップをゆるめて取外します。
3. 燃料コックレバーを“ON”(出)にしてタンク内の燃料を容器に受けます。
4. キャブレータ内の燃料をドレンボルトをゆるめて容器に受けます。
5. 完全に燃料が抜けたら、ドレンボルトを締付け、燃料ろ過カップを取付けてください。
6. 燃料コックレバーを“OFF”(止)にします。



取扱いのポイント

次回使用時は、新鮮な燃料を入れてください。

⚠警告

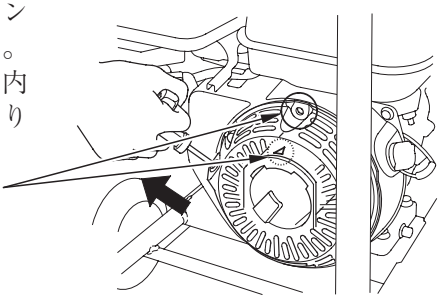
ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。

- 換気の良い場所で行ってください。
- 火気を近づけないでください。
- ガソリンはこぼさないようにしてください。万一こぼれた場合は、布きれなどで完全にふき取り火災と環境に注意して処分してください。

2 エンジンオイルを交換します。(交換方法は44頁参照)

3 エアクリーナ(空気清浄器)を清掃します。(清掃方法は46頁参照)

4 始動グリップを重くなるところまで引き、プーリのマークをファンカバーのマークに合わせます。(エンジンバルブが閉じ燃焼室内にホコリ等が入らない状態になります)



5 クランク室のオイル(ポンプ部)を点検し不足している場合は補給しておきます。(補給方法は25頁参照)

6 ポンプ部、付属品は完全にホコリ、水気を取り金属部を油布で軽く拭いてください。

7 湿気、ホコリの少ないところに保管してください。

故障のときは

まずご自分で次の点検を行い、その上でなお異常のあるときには、むやみに分解しないでお買いあげ販売店にお申しつけください。

エンジン部

始動しないときは次の点を確かめましょう。

1. 始動方法は取扱説明書通りですか? (30～34頁参照)
2. 燃料はありますか? (21、22頁参照)
3. エンジンオイルは注入口、口元までありますか? (23頁参照)
   (WS1513はオイルアラートシステムが働きます。)
4. 点火プラグキャップは確実に取付けられていますか? (47頁参照)
5. 点火プラグは汚れ、濡れていませんか、また火花すき間は適正ですか? (47頁参照)
   - 点火プラグの清掃や火花すき間の調整が正しく行えない場合、新しい点火プラグと交換してください。

少し時間をおいてもう一度確めましょう

ポンプ部

1. 水を吸い込まない

- 吸水タンクに水は十分入っていますか。
- 吸水ストレーナが完全に水中に入っていますか。……29頁
- 給水タンクの水面と吸水口の高さの差が
  WS1010：1m
  WS1513：2m以内になっていますか。……29頁
- 使用水は清水（水道水）を使っていますか。
- 水・空気抜きの作業は行いましたか。……33頁
- 吸水ホースの接続は十分ですか。
  接続部の締付けとパッキンを点検してください。……28頁
- 吸水ホースに穴はあいていませんか。
- 吸水ストレーナが詰まっていませんか。……28頁
- ラインストレーナが詰まっていませんか。……27頁

2. 噴射圧力が上がらない

- 水を吸い込んでいますか。
  吸っていないなら上記1.を確認してください。
- 高圧ホースの接続部から水が漏れていませんか。
  接続部の締付けとO－リングを点検してください。……26頁
- 高圧ホースは適正なものをお使いですか。
  長過ぎたり、細過ぎるホースは圧力低下のもとです。
- 適正なノズルを使っていますか。
  ノズルからの吐出量が多過ぎると噴射圧力があがりません。

3. 異音がする

- 水を吸い込んでいますか。
  吸っていないなら上記1.を確認してください。
- オイルは入っていますか。……25頁

主要諸元

名称(タイプ)	WS1010	WS1513
型式	WADJ	WAEJ

外観寸法

全長	725 mm	545 mm
全幅	410 mm	500 mm
全高	755 mm	485 mm
乾燥質量(重量)	26 kg	31.5 kg
吸込側口径ネジサイズ	1/2″	
吐出側口径ネジサイズ	3/8″	
余水口ネジサイズ	———	3/8″

ポンプ

吸込揚程	1 m	2 m
噴霧時最高設定回転数	3,400 rpm	1,750 rpm
最大圧力	10 MPa (102 kgf/cm^2)	15 MPa (153 kgf/cm^2)
最大吸水量	10 L/min	13 L/min
使用液温度	0～60°C	
オイル容量	0.4 L	

エンジン

原動機の型式	GCBNT	GCBUT
原動機の呼称	GX120	GX200
形式	強制空冷4ストローク	
排気量(内径×行程)	118 cm^3 (60.0 × 42.0mm)	196 cm^3 (68.0 × 54.0mm)
点火方式	トランジスタマグネト点火	
エンジンオイル容量	0.56 L	0.6 L
燃料タンク容量	2.0 L	3.1 L
点火プラグ	BP6ES (NGK)、W20EP-U (DENSO)	
回転方向	ポンプ側から見て左回転	

注意：諸元は予告なく変更することがあります。

メ　モ

メ　モ

Honda汎用製品についてのお問い合わせ･ご相談は、
まず、Honda販売店にお気軽にご相談ください。

販売店

TEL

お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記の
お客様相談センターでもお受け致します。

本田技研工業株式会社　　お客様相談センター

フリーダイヤル　　0120－112010（イイフレアイオ）

受付時間　　9：00～12：00　　13：00～17：00
〒351-0188　埼玉県和光市本町８－１

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

Honda汎用製品に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速にご対応させていただくために、あらかじめ、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

①製品名、タイプ名
②ご購入年月日
③販売店名

HONDA

The Power of Dreams

30YG5610
00X30-YG5-6100

© 2015 本田技研工業株式会社